

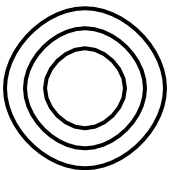


東洋の応縮的地観

The Eastern Condensational View of Earth

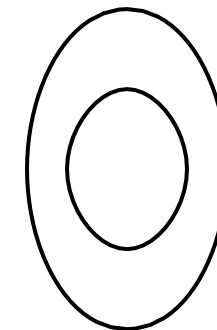
発表概要

- 1 西洋と東洋の地観の相違点
- 2 東洋の凝縮的地観の構成要素
- 3 天地人三才と陰陽五行
- 4 三数分化体系と現代的解釈
- 5 伝統思想における地の重要性
- 6 結論および示唆点



西洋と東洋の地観:根本的差異

- 西洋資料的地観
超越的天(イデア、唯一神、唯物論など)と形相質料二元論
- 東洋凝縮的地観:
超越天+内在天(天地)、天地神明、現実世界の関係性を重視
- 東洋は天と地、神明の役割分担に注目:
天(同化) — 地(凝縮) — 易学の乾坤として表現



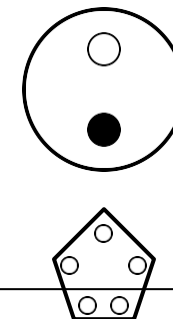
東洋の凝縮的地観構成要素

- 超越天、内在天、天地神明の三重構造
超越天(上帝)、内在天(天)、天地(地)に分かれる立体的構造
- 天=同化、地=凝縮(乾坤の原理)
天は同化(同化)する役割、地は天地の気を形体と器(器)として凝縮
- 神明の体系的区分:
天神(天神)、地示(地示)、人鬼(人鬼)の相互作用と役割分担
- 関係性と「属性」が実体より重視される
西洋の実体(實體)中心の思考とは異なり、事物の相互関係と作用を強調



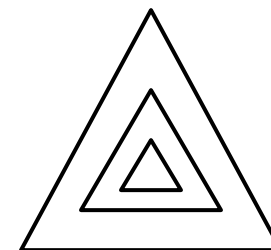
天地人三才と陰陽五行

- 天地人三才:
超越天、内在天、内在地の3元体系
- 陰陽五行との結合:
世界の属性と秩序を理解する枠組み
三才観が陰陽へ、陰陽が三才観へ拡大された概念
- 各思想の融合:
異なる出発点から相互関係の中での融合
「属性」という側面で結合し東洋哲学の基盤を形成



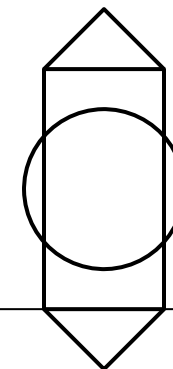
三数分化体系と現代的解釈

- 天地人、陰陽、五行の三数分化・三数分化構造
万物を天地人という三つの構成物の複雑系的拡大として見る体系
- フラクタル構造および深層心理学との関
連性: プス・コンプレックスと類似した構造、フラクタル美学の一つと
しての対称性
- 東西共通の三元構造:
西洋: カントの三元体系、聖父-聖子-聖神 / 東洋: 天地人
体系 人文-社会-自然科学を統合的に照明する構造



東洋伝統思想における地の重要性

- 思惟の中心に「地」の生命性と関係性を強調:
内在天の観点から見た地は超越天の観点よりも生命との関係が深い
- 風水地理、祭祀、土(土)中心の哲学的・実践的比重:
東アジアの自生的地理学である風水地理学は伝統文化のアイコン
陰陽五行における土(土)の重要性の強調 — 五行の中心
- 人間と自然の相互作用、相生理念の根源:
地の地位上昇(正陰正陽)は人間の解冤(解冤)と相生(相生)の核心 地は
天地人との相関関係において重要な一軸を担う



結論および示唆点

- 西洋と異なる東洋地観の独自性
質料的地観ではなく関係性に基つた凝縮的地観の固有な哲学的意義
- 現代の生態、神学、社会哲学における拡張可能性
大地人思想の現代的適用と「地」の生命性・相互作用重視の観点の再発見
- 相生関係性中心の世界観がもたらす統合的洞察
現代社会の危機克服と自然-人間の調和的共存パラダイムの提示

